

市民公益活動団体の
魅力を発信!

[ヨコスカリンク]

Yokosuka

Link

市民協働通信

vol.1

Nov.2025

笑顔
がっなぐ、
やさしい
まちづくり

CONTENTS

このまちの主役たち……………2～5P

- ・三浦半島活断層調査会
- ・鷹取山自然観察会
- ・嘶の創造社
- ・えんがわカフェ佐島

クローズアップ!

&クロストークよこすか……………6P

このまちの 主役たち01

三浦半島活断層調査会

会 長：茅 野 教 幸 さん

市民の思いから生まれた活動

1995年の発足から30年を迎えた三浦半島活断層調査会。同会誕生のきっかけは、同年1月17日に起きた阪神・淡路大震災でした。被害の大きさに衝撃が広がるなか、地震の原因が活断層であることから、三浦半島にも活断層があると市民の不安が高まりました。当時の横須賀市自然・人文博物館の学芸員が説明会を開いたところ、会場には200人以上の市民が集まるほどでした。「行政を超えた調査を自分たちの手で」という声が次々と上がり、その熱意から活動がスタートしました。現在では、元学校教員を中心とした約60名の会員が、講演会や野外調査などの活動から理解を深め、研究成果を市民向け講座や観察会で広く発信しています。

次世代に伝える“防災・減災の大切さ”

三浦半島活断層調査会は、未来を担う子どもたちに防災の大切さを伝える活動に力を入れてきました。横須賀市北消防署と協力して開催した「子ども防災大学」では、調査会が地震や活断層の知識を担当。避難訓練と組み合わせた学びの場は、平成20年防災功労者内閣総理大臣表彰を受けるなど高く評価され

地層を調べ、
学びを減災につなぐ

ました。現在では、市の博物館と連携して「子ども地球教室」や「みんなの理科フェスティバル」を開催。また、関東大震災の記憶がある逗子小学校では「サマースクール」に毎年協力し、パネル展示と液状化実験、建物と揺れの関係を示す実験などを通じて、参加者自らが体感し地震を理解する機会を広げています。

地域に根づくあたたかさ

地域に暮らす人々と共に防災・減災の知識を育んできた同会は、高齢化を課題としてこれからも活動を続けるため会員を募集しています。「活断層を知り、三浦半島の自主調査を通じて減災につなげる活動に興味を持ってほしい」と語る会長の茅野さん。いつ起こるか分からない災害から市民を守る「学び」「伝え」「備える」活動に参加してみませんか。



今日からできる
協力の
“カタチ”

- ✓ 会員になって一緒に活動する
- ✓ 防災イベントや子ども教室に参加して、地震や活断層の知識を知る
- ✓ 家族や友人に調査会の活動を話して伝える
- ✓ 寄付をして活動を応援する

団体情報

三浦半島活断層調査会

事務局長 青木厚美

〒247-0056 鎌倉市大船4-21-5-603

問い合わせ：☎080-1193-5179

mail：atsumi-aoki@mcko.jp

このまちの 主役たち02

鷹取山自然観察会

ほんだ ひさお
代表：本多 久男さん

身近な自然を
伝える観察会

四季折々の自然にふれる場

横須賀市と逗子市の境にある鷹取山は、標高139メートルの小さな山。かつて石材採掘で切り立った岩肌が広がる一方で、いまは緑豊かな里山として市民に親しまれています。この地で2011年から活動が続けるのが「鷹取山自然観察会」です。毎月第2日曜日を中心に開かれる観察会では、春のタチツボスミレやカントウタンポポ、夏のアゲハチョウやセミの羽化、秋の七草や紅葉、冬のシジュウカラやジョウビタキなど、四季折々の自然を観察。毎回15名前後が集まり、初心者でも安心して楽しめる場となっています。

会を支える人々の思い

同会は、退職後に「自然観察会をやりたい」と声をあげた会長の本多さんを中心に、仲間たちが集まりスタートしました。現在の会員は60～80代を中心に21名。地元横須賀や逗子の人が多いですが、市外から通う人も。参加理由は「植物が好きだから」という人が多く、「なによりも好きというのが大事」と口をそろえます。年齢を重ねても季節毎に新しい発見があり、「昨日と同じ道でも今日は違うものに出会える」と笑顔で語っ

てくれました。自然を通じた学びと交流が、この会を長く続ける力になっています。

調査で未来へ自然をつなぐ

観察会では、2013年から植物や蝶、野鳥などの「生物モニタリング調査」にも取り組み、三浦半島で確認されている約4割にあたる植物700種以上と野鳥46種、蝶は51種を確認。調査成果は一般向けに冊子として発売されています。市民の手でコツコツと積み重ねられた記録は、地域の自然を「知り」「守り」「伝える」大切な役割を担っています。本多代表は「自然が好きという気持ちがあれば十分。ぜひ会員になって、一緒に活動してほしい」と呼びかけています。駅から近く気軽に参加できる鷹取山で、自然を楽しみ、守り、未来へとつなぐ活動にご参加ください。



今日からできる
協力の
“カタチ”

- ✓ 会員として活動に加わり、調査や記録を手伝う
- ✓ 観察会に参加して、一緒に自然を楽しむ
- ✓ SNSや地域の掲示板などで、活動をPRする
- ✓ 会の発行する冊子や活動成果を広めるお手伝いをする

団体情報

鷹取山自然観察会

代表 本多 久男

問い合わせ：☎090-4177-0164

mail: takatori_0721@nifty.com

鷹取山自然観察会



このまちの 主役たち03

噺の創造社

あら や たけし
代表：新谷 健さん

詐欺から
市民を守る語り部

落語が生んだ語り部の始まり

落語や寸劇を通して詐欺の手口をわかりやすく伝え、悪質商法から市民を守る語り部「噺の創造社」。平成元年(1989年)に設立したきっかけは、代表の新谷さんが市役所に勤めていた時に先輩職員から「なにに面白いことをしようよ」と声をかけられたことでした。その声を掛けた張本人であり、自身が出演する落語会に作家の池波正太郎が常連客として聴きにきていたという三優亭右勝や竹廼家寿々女、日本社会人落語大会で優勝し、今も年間100回以上高座に上がる墨亭右柳など多彩な経歴を持つメンバーが集まり、30年以上にわたって町内会などで落語会を行ってきました。

消費者を守るための活動

転機は、2019年に横須賀市消費生活センターから寄せられた依頼でした。高齢者を狙う詐欺や悪質商法の被害が増える中、「笑いで防げるなら」と立ち上がったのです。コロナ禍には横須賀市と協力し、モデル事業として出前寄席やラジオ出演などの啓発活動を実施。現在は月に一度のペースで、会友であるマジシャン・チャーリー藤さんの協力を得ながら落語やマジックを組み合わせ

た活動が続いています。等身大の事例を取り入れ、身近な出来事として感じてもらえるよう工夫しています。さらにダジャレを効かせたオチで会場は笑いに包まれ、「面白かった」「勉強になった」といった声が寄せられています。単に笑いを届けるだけでなく、地域に安心を広げ、被害を未然に防ぐ大切な役割を担っています。

笑いで平和を創造する

PR手段や市内町内会の方々への周知が不足しているという課題を抱えながらも「笑いがあれば、世の中は平和になる。詐欺の深刻さを伝えながらも、笑いを忘れない。それが私たちの使命」と語る新谷代表。市内でも後を絶たない悪質商法による被害から落語や寸劇などを通して、これからも市民の暮らしに笑いと安心を届け続けていきます。



今日からできる
協力の
“カタチ”

- ✓ 町内会の落語会に家族や友達と参加してみる
- ✓ 拍手や笑い声で会場を盛り上げる
- ✓ SNSや口コミで紹介してみる
- ✓ チラシを置ける場所があれば、ぜひ教えてください！

団体情報

噺の創造社
代表 新谷健
問い合わせ：☎080-6552-6904
mail: ken.araya-yumeo@ezweb.ne.jp
Facebook：
<https://www.facebook.com/takeshi.araya.18>

このまちの 主役たち04

えんがわカフェ佐島

ふくもと さち こ
代表：福本 幸子さん

地域の笑顔
を
咲かせる
カフェ

キッカケは孤立を防ぎたいという想いから

横須賀市佐島地区で高齢者が気軽に集まり、体操やおしゃべりを楽しむ交流の場となっている「えんがわカフェ佐島」。2018年に代表の福本さんが活動を始めたきっかけは、近所の高齢者が外に出づらくなっている方が増え、特に認知症の傾向がある方が周囲から孤立してしまう状況を目にして、「そういう方々にも気軽に関われる仲間がいればいいのに」と感じたことで立ち上がりました。「まずはお茶を飲みに来ませんか」と近所に声を掛けスタートし、10人ほどの集まりから口コミや回覧板を通じて少しずつ広がり、今では30人程度が集まる居場所となっています。

仲間と過ごす楽しい時間

えんがわカフェ佐島の魅力は、何よりも「みんなで楽しく過ごせる時間」。漁港でのラジオ体操や月2回のお茶会に加え、毎週土曜日の朝には、誕生日会やボッチャ、フリーマーケットなどさまざまな催しを企画。その他、年に3回ほど防災やスマホ、化粧教室といった生活に役立つ講座も。最高齢88歳の参加者は「ここに来れば佐島の人に会える。毎週が楽しみで、

帰りは足が軽くなる」と生き生きとした表情で語ってくれました。また、参加者同士で送迎をするなどの自然な支え合いも生まれています。

地域に根づくあたたかさ

地元企業によるコーヒーやお菓子の提供、地元農家さんによる規格外野菜の提供など地域からの支援の輪も広がっています。代表の福本さんは「活動をこれからも続けるために、ボランティアや参加者がもっと増えると嬉しい」と語ります。気軽に顔を合わせて笑顔を交わせる場所があることは、単なるおしゃべりの場にとどまらず、健康づくりや情報交換の場としても役立ち、佐島に欠かせない安心を生む大切な拠点となっています。



今日からできる
協力の
“カタチ”

- ✓ 友達やご近所さんを誘って、一緒に参加してみる
- ✓ ボランティアスタッフとして会場の準備や片付けを手伝う
- ✓ 土曜の朝ラジオ体操に参加してみる
- ✓ お菓子やお茶を寄付してみる

団体
情報

えんがわカフェ佐島

代表 福本幸子

mail : engawacafesajima@gmail.com

今注目の
支援制度を
ご紹介!

クローズアップ!

Close Up!

市民の公益活動を応援するために、活動費を補助する「**市民協働推進補助金**」と、市と一緒に取り組む「**市民協働モデル事業**」をただいま募集中です。今回ご紹介した活動も、これらの制度を利用しました。

これから活動を始めたい方も、ステップアップしたい方も、この制度をぜひ活用してみませんか!?

詳しくは、
横須賀市HPへ



応募締切

12/5金

その一歩、一緒に踏み出してみませんか?

市民協働推進補助金

内容 市民団体が行う公益的な事業(みんなの役に立つ活動)にかかる経費の一部を、市が補助します。

実施体制 団体が単独で計画、実施

実施期間 単年度

市の財政的支援 事業に直接かかる経費のうち20%以上を団体が自己負担のうえ、市が上限50万円を補助

想いを
カタチにする
ヒントはこちら



市民協働モデル事業

内容 地域の課題を解決するために、市民団体と行政が協力して取り組む事業です。

実施体制 団体と市の関係部局で実現に向けて協議し、合意ができれば協定を締結、実行委員会を組織して事業を実施する

実施期間 最長3年度

市の財政的支援 事業に直接かかる経費として年間40万円を市が負担

未来と一緒に
創ろう



COLUMN

CROSS TALK よこすか

市民協働という言葉が生まれて四半世紀が経ちます。実は横須賀市は市民と行政と一緒にまちづくりを進める「協働」の指針を、全国でも最初期に打ち出した最先端都市でした。それから25年の間、様々な市民活動支援、行政の協働意識育成に取り組んできた結果、街中にその輪が広がってきました。そして今、価値観の多様化や社

会問題の山積ぶりを見るにつけ、安心で快適な市民生活確保のために、市民と行政との協働がより一層求められる時代になってきている感もあります。両者の信念と、厚い信頼関係から生み出された素敵な取り組みを紹介する記事をお読みいただき、「私もやってみようかな!」というきっかけになることを大いに期待しています。



横須賀市市民協働審議会
委員長 志村 直愛